法親寺新聞

最近のおうち時間のマイブームは「手作りリップ作り」です!!

2020年
手書き新聞 No.42

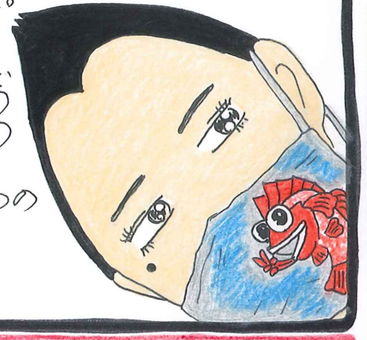
こんにちは。繹 紗音です。
世界で新型コロナウイルスが流行し、皆様も不安な日々を過ごされている事と思います。
親鸞聖人の時代(平安〜鎌倉時代)も、疫病、大飢饉、戦、天災などで、明日があるか分からない不安を抱えて生きなければならない人々が沢山いました。
また、その不安により、祈祷などの需要が増え、宗教が流行った時代でもありました。
現代の様に科学やインターネットが実証してくれないので、自然災害も目に見えない何か悪いモノの存在のせいでは…とさえ考えられていました。
しかし、個人の救済となると、自力で修行が出来る力のある男性や、若者、勉学が出来る人や寺に寄附が出来る貴族しか宗教に触れる機会はなく、女性や子供、お年寄り、病人、平民などはどうしようもない不安な日々を送っていたのです。
明日は自分が死ぬかもしれない。死んだらどうなるのか、どこへ行くのか。
今の様に当たり前に明日が来る世の中ではありませんでした。
そんな時に「どんな人でも平等に救い取る阿弥陀如来の他力の教え」は、辛い日々を過ごす民衆にとって、生きる希望でした。(他力=阿弥陀様の本願力)
当時はまだ、浄土真宗という宗派はなく、親鸞聖人は絶大な信頼を寄せているお師匠様、法然聖人(浄土宗開祖)から他力の教えを学ばれていました。
「凡夫を救うために願いをおこされた阿弥陀如来の本願を信じて念仏すれば、どんな人でも救われる(浄土宗)」という教えは分かりやすく、多くの人々に知れ渡りました。
貴族や一部の人間の間で独占されていた宗教が、法然聖人や門弟、親鸞聖人の布教によりどんどん民衆に広がり、大きな影響力を持ちだした事で、他宗派の僧侶や国にとって邪魔な存在になり、僧籍を剥奪され、流罪や死罪にあって、全国バラバラになってしまったのです。
人々がどれほど南無阿弥陀仏に救われ、喜び、世間に広まっていたのかが、良く分かる出来事です。
越後に流罪にあってからも、親鸞聖人は諦めず、民衆に混ざって布教を続けられ、文字が読めない、書けない人達も、誰もが覚えやすい阿弥陀様の本願の歌を作って田植えをしながら皆で歌いました。
法然聖人ご往生の時も、臨終に立ち会う事は出来ませんでしたが、ご遺言の通り色々な場所でご法義を伝える為に、徒歩で関東へ向かいながらも布教活動を続けられ、沢山の門弟、門徒によって今日まで浄土真宗が大切に伝えられてきました。
親鸞聖人が、他力の教えを解釈してくださった七高僧を讃嘆して作られた「高僧和讃」の中に、葬儀でもお勤めされる和讃があります。

本願力にあひぬれば　むなしくすぐるひとぞなき
功徳の宝海みちみちて　煩悩の濁水へだてなし
(本願のはたらきに出会ったものは、むなしく迷いの世界にとどまることがない。
あらゆる功徳をそなえた名号は宝の海のように満ちわたり、濁った煩悩の水であっても何の分け隔てもない。)

命があるということは、必ず終わる時が来るけれど、ただ死んでいく虚しい命ではなく、阿弥陀様の本願力によって仏としての永遠の命をいただき、今度は残された人々を浄土へ導く存在になります。
煩悩も罪もこの世で生きている間に無くすことは出来ず、悟りの身にはなれませんが、阿弥陀様のはたらきに包まれた、仏になることが約束された人生です。
私達に出来るのは、願ったり頼んだりすることではなく、報恩感謝のお念仏です。

住職の法話『人との「つながり」、仏さまとの「つながり」大切に!!』

新型コロナウイルス感染症により、世界中で多くの人の命が失われ、経済は衰退し、人々は不安と心配、悲しみの日々を送っています。今年も除夜の鐘を突き新年を迎えました。1月は自坊の報恩講に引き続き、本山のご正忌報恩講へ参拝し、いつものように日々が過ぎ去るものと思っていましたが、数ケ月後は生活が一変するような事態となっています。諸行無常の言葉が身に沁みる思いです。
全国に緊急事態宣言が発令され、新型コロナ感染症に感染しない、させないためにはいわゆる「3つの密(密閉、密集、密接)」が重なる環境を避けることが重要とされています。仏教的言い方をすれば、ウイルスとの縁を切るというものですが、それは同時に人との接点を遮断し、人と接触しないと言うものです。そのことによって安心感を得るはずの人とのつながりが不安をもたらすものとなってしまいました。
4月14日浄土真宗本願寺派より「新型コロナウイルス感染症に関する念仏者としての声明」が発表されました。それには『「つながり」を表面的に捉え、危険なものと否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来的な意味とその大切さに気づいていく必要があります。』とあります。たとえしばらく会えない人があっても、互いに支え合い、こころの「つながり」を今まで以上に強く持ちましょう。
そして、苦悩の中にあっても、悲しみや不安を共にしてくださる仏さまのおられることを忘れず、お念仏いたしましょう。



繹里蓮のコレがオススメ!!

おうちで作ろう
生チョコ風 ガトーショコラ

こんにちは☆
ケーキが食べたい時は夜中でも作ってしまう繹里蓮です。今回は、お家で簡単に作れるレシピをご紹介します(えぶ)作ったことのない方も、ぜひ挑戦してみてください♡

用意するもの
- 板チョコ　200g(ミルク100g, ビター100g)
- 生クリーム　100g(動物性・植物性　どちらでも可)
- 薄力粉　大さじ1
- 常温にもどした卵　2個
- 泡立て器(チョコを溶かす際はゴムベラがあると便利)
- 100均の紙のパウンド型(6.5×17.5cm 高さ4.5cm)
- ボウル 2個(生地用・湯煎用)

① オーブンを170℃で予熱スタート。
② 板チョコを刻むか細かく割ってボウルに入れる。

③ 湯煎用に沸騰させたお湯をボウルに入れて1分程冷まし②を重ね、チョコを溶かす。
④ 溶けたチョコに、レンジで40秒ほど温めた生クリームを少しずつ加える。固まってくるようなら、また湯煎にかける。
⑤ 滑らかになったら、溶き卵を数回に分けて加え、よく混ぜる。
⑥ 薄力粉をふるって(茶こしでOK)⑤に加え、よく混ぜる。

⑦ 型に流し入れる。生地の空気を抜くために、5cmほど上の高さから数回落とす。
⑧ オーブンに入れ、170℃で33分焼く。

⑨ 粗熱をとってから冷蔵庫で24時間寝かす。
2日目以降がしっとりとして美味しいです♡

☆冷蔵庫で保存して、しっかりと冷やしてお召し上がりください。
賞味期限は、冷蔵で4日間です。

繹里蓮のひとことメモ
チョコに水分が入ると、分離してモロモロになります。
湯煎のお湯を入れすぎないように注意してください。
ミルクチョコとビターチョコの割合はお好みでOK♪
食べる時に、粉糖をかけたり、生クリームをそえても美味しいですよ(^^)

おしえて住職 仏教語

あきら
諦める

諦めると聞くと、やりたいこと、どうにもならないことを断念する時に使われることが多いですね。「諦」とは「まこと、心理、悟り」という意味です。
お釈迦様は「苦諦・集諦・滅諦・道諦」の四諦に分けて見ることによって真理を知ることができると説かれました。
「明らかに真実を見る」という、消極的ではない言葉なのです。

お知らせ

コロナウイルス感染症の影響により下記の行事が中止・延期となりました。
5月9日　春季永代経法座　中止(寺族のみで勤修)
5月11日〜12日　第46回西本願寺念仏奉仕団・納骨参拝　延期(来年開催)
6月中旬　仏教婦人会総会　中止
7月4日　お盆法座　延期
10月11日　秋季永代経法座　延期
11月3日　お盆永代経代替法座(午後1時 講師 赤井智顕師)